

太田川水系をネットワークする情報誌

てくてく太田川

てくてく太田川のブログにアクセス!!



http://ohtagawada.hamazo.tv/



私たち花火鑑賞士は、日本の素晴らしい花火文化を内外に普及啓蒙する活動を行っています。

この方にガイドしていただきました



花火鑑賞士 石井孝子氏

原野谷川にかかる広愛大橋をバックに夏の夜空を彩るスターマイン。

右写真の「ドラマチックハナビ」は磯谷煙火店さんの作品。コンピューターのテクノロジーと、色や音の感性を兼ね備えており、女性ファンも多いそうです。



磯谷煙火店代表 磯谷尚孝氏



特集 袋井



取材を終え、ほっと一息。ありがとうございました!



川岸に打ち上げ用の筒が並び。



この装置が、どんな彩を醸し出してくれるのだろうか?興味津々。



ここから先は、人数限定。黄色のスタッフTシャツを着て中へ。



豊田会頭から「とにかく安全に!」と。皆で気を引き締めた。

「花火は危険物。事故無く無事に終わるとほっとする。」という言葉が印象的でした。袋井で新しい試みが成功することで、それ以降の競技会へ弾みもつくと話からも、「ふくろい遠州の花火」は、大曲にも隅田川にも負けていないと思えました。

「花火は危険物。事故無く無事に終わるとほっとする。」という言葉が印象的でした。袋井で新しい試みが成功することで、それ以降の競技会へ弾みもつくと話からも、「ふくろい遠州の花火」は、大曲にも隅田川にも負けていないと思えました。



原野谷川親水公園周辺

袋井の夏と言えば、「ふくろい遠州の花火」毎年この日を心待ちにしている一人です。その日になると原野谷川親水公園周辺は、ペーパークーに乗った小さな子どもから、杖をついたお年寄りまで人で溢れる。

市街地の中に川が流れる袋井市。市民の生活と川は切り離せない。憩いの場であり、「コミュニティの場にもなっています。袋井市繁栄の象徴とも言える「袋井の花火」は昭和の時代を経て、1995年には「静橋」の河川敷から原野谷川親水公園に開催場所を移しています。



鈴木敦子



▲三河産粘土(左)と遠州産粘土(右)



▲今から1300年前の太田川低地の古地理図

青 遠州産と三河産では、どんな違いがありますか? 遠州産の粘土は色が黒く、低温でじっくり焼き上げると、独特のいぶし銀の光沢と滑らかな風合いが出てきます。

今回の特集の鬼秀瓦について、地質学的な見方から紹介しましょう。鬼秀の主人公、名倉孝さんに鬼瓦の原料となる土についてお話を伺いました。青島 鬼瓦の原料となる土はどんな土ですか? 鬼秀 柔らかい粘土です。この粘土は、昔から使っている遠州産と戦後から使いはじめた三河産の2種類があります。



地質学講座

磐田南高等学校教諭 青島 晃

「袋井の花火」の会場だった静橋. Includes QR code, photos of the bridge, and text about its restoration.

梅山の「報恩の記念碑」. Includes photo of the monument, QR code, and text about its significance.

自然を利用した川づくり. Includes QR code, photos of river restoration work, and text about the project.

2017てくてく太田川ものしりクイズ. Includes QR code, rules, and prizes for the quiz.

編集局員を募集しています! Includes QR code, contact information for the editorial board, and a search bar.

# 笑鬼

## 鬼秀さんとの出会い



鬼秀さん 田原水車里愛護会代表 高木保則

鬼秀さんとの出会いは、平成4年の秋、開設間もない森町体験の里「アクティ森」でした。会社の「日本の伝統工芸を体験しよう」という企画で「何か趣味づくり」と、「鬼瓦工房」に参加したのですが、いつしか鬼瓦の魅力に取りつかれ、毎週日曜日、約10年もの長い間アクティ森へ通い続けました。アクティ森の「遠州森の鬼太郎」の大鬼瓦や、春野町の「勝坂神楽の里」の神楽獅子の大型型「ニユメント」の制作据付に、遠州鬼瓦研究会の「会員」として鬼秀さんのお仕事に携わることができ、完成時には大いなる達成感と感動を覚えたものでした。鬼秀さんの考案した「平成の笑鬼」には、こんな一つの記述がありました。「鬼が笑った顔の瓦には鬼秀さんのウイットに富んだ人柄が映し出されているようです」と。鬼秀さんは、いつも気さくに話をしてくださり、25年もの間お付き合いさせて頂いています。

## 川でのイベント発見!



武藤 君幸

掛川市の真ん中を流れる逆川。掛川城下では、3月に「掛川桜」が川沿いに満開、本広報紙「掛川特集」で紹介しました「ゆり」は、6月に見ごろとなります。平成27年冬には、掛川城をスクリーンとした「ロジェクションマッピング」を開催、平成28年6月には、ゆりと光と音によるショーが楽しめる「スローな花火と光のイリュージョン」が開催され、多くの人で賑わいました。今年は、どんなイベントが開催されるのでしょうか? あなたの市町村で、「川と共に開催されるイベント」を是非とも探してみよう! 新たな発見、ワクワクがあるかも知れません。

## アサギマダラの飛び交う里山



安藤 凱夫

掛川市の北部、太田川の支流の倉真川の起点標識が在る付近に倉真温泉があり、ここにある老舗旅館の真砂館では、数年前から秋の七草の一つ「フジバカマ」の栽培を始めたところ、長旅をするというアサギマダラ(蝶)が、毎年数十羽が訪れるようになり、優雅な舞を見せられます。アサギマダラは千キロ以上も旅する蝶と言われ、夏に長野県の高原地帯で生息し、寒くなると南方へ向う蝶で、中には長野県から、奄美群島や沖縄地方にまで南下したことが確認されています。旅の途中に毎年10・11月ごろ、このフジバカマに立ち寄り吸蜜をして体調を整え、長旅に備えるアサギマダラの飛び交う里山を訪ねてみませんか。

## スッポン



辻 克美

首つて、こんなに伸びるんですよ! 太田川で捕獲したスッポンです。絶滅危惧種のリストにも掲載されましたが、実は、太田川水系でも意外と見かけるんですよ。ただし、スッポンを見つけても、決して触らないようにしましょう。昔から「度噛んだら、雷が鳴っても離さない」と言われるほど、噛む力が強いのです。寒くなると冬眠して、春を来るのを首を長くして待っています。



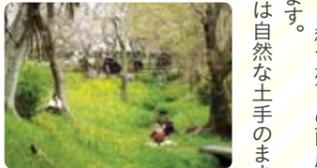
こんなに伸びます!

今日もグラウンドに元気な声が響き渡る。東に宇川川、南に宇川川・原野谷川に囲まれている袋井中学校の以前のグラウンドは、校舎より、2m低く、大雨の後は水に浸かり池になってしまった。網を持って魚を取る人が居るといふ噂話が流れるほどでした。御幸橋東の宿公園の高札は、袋井宿が高い土手(土塁)に囲まれていたこと、大正時代の写真には高さ2mを超す土手が写っていることなど、水に苦労した様子を伝えています。宇川川と原野谷川の中堤防が学校の脇から鉄開橋の手前まで約1kmわたって伸びているのも、並行にすることで水害を防ぐこと、工夫ではないかと思われています。水に苦労してきた地域も、以前より安全性が高くなりました。



袋井中学校 陸奥橋

この川の源流は誰もが知っている桶ヶ谷治で、太田川には新明ヶ島橋の北側に水門を介して合流しています。桶ヶ谷治には日本に生息するトンボの約3分の1の67種類が確認されています。1キロ程の短い川ですが、その流域には歴史的にも重要な名所旧跡がいっぱいです。旧東海道の松並木、鎌倉の古道、台地の上には二子塚古墳、そして田原水車の里、桜並木等、四季を通じて誰もが楽しめる憩いの場所です。川幅は3m程で殆どの両岸はコンクリートで固められています。でも水車の里付近だけは自然な土手のままになっており、春から秋にかけてオタマジャクシ、カエル、小魚、トンボ、蝶々と子どもたちにとっては最高の遊び場として親しまれています。是非多くの皆さんに散策してほしいと思います。



川の中央で美観を損ねていた枯木が昨年(平28)に伐採され景観が一層良くなりました。



とっても新鮮な太刀魚



タワーからの眺めも素晴らしいです!

太田川が海にそそぐ福田地区に、「海」と「食」と「人」を交流させる場、渚の交流館が平成28年5月にオープン。キラキラ光る太平洋を見ながら、地元朝取れ野菜や新鮮な魚の刺身が食べられる。和室も授乳室もあり、子ども連れも安心。屋外にはお砂場、ビーチスポーツ、イベントスペースもあり、シャワールームも完備。浜ではサーファー達が波を待っている。



安間 美穂子



型抜き体験

鬼秀さんを取材して思ったのは、鬼秀さんはかっこいいということでした。私が注目したのは鬼秀さんの手。鬼秀さんの手は職人の手だということが、子どもの私にもわかりました。鬼秀さんは何十年も一つのものを作ってきたかっこいい手をしていました。鬼秀さんがしてくれた話は、そんな職人の人だからできる話ばかりでした。鬼秀さんがいつまでもかっこいい鬼秀さんでいてほしいと思います。

## 鬼秀さんは格好いい



浅羽 桃子



ギャラリーにて

鬼秀さんを囲んで最後にみんなで記念撮影!

4代目鬼秀さんといえば、笑鬼瓦。「平成の笑鬼」



最初に屋根があった... 確かに、我々の祖先達が、縄文・弥生の時代に、外界から身を守るために住んだ竪穴住居の形態は、登呂遺跡にも見られるように、屋根だけか建てなかつた祖先達が、おとろきをもって迎える出来事が起こる、彼の仏教と仏教建築様式の伝来だ。仏教の伝来を受け、蘇我馬子が我が国最初に建てた飛鳥寺(本興寺)は、百濟の瓦工が日本で最初に製造した瓦で葺かれたと言われる。前置きがだいぶ長くなったけれど、鬼秀さんは鬼師(職人)だ。二万1400年という途方もない時代を生きてきた瓦文化の伝承者とも言える。かつて、民藝運動を起した思想家、美学者、宗教哲学者である柳宗悦は、「こんなこと言っていた。『世界に冠たる日本の美術品、その美術家の仕事と言ふものは、職人芸の模倣に過ぎない』だとすると鬼秀さんは美術家・アーティストでもある。鬼秀さんは「へら」丁で土魂を削り整形し磨く、さらに、炎を自在に操り焼き上げる、そんな、伝承者と美術家の顔を持った職人なんだ。

## 最初に屋根があった...



清水 國雄